

海外投融資情報財団(JOI)は、我が国企業の海外直接投資の動向、海外におけるエネルギー・インフラ・資源開発、新興国の投資環境とビジネス機会等に関する情報を、当財団が主催するセミナー、調査研究、ビジネス情報誌やウェブサイトを通して、会員企業および一般の皆さまに提供します。かかる活動を通して会員相互の情報の交流、ネットワーク拡大を図り、我が国企業の海外直接投資・国際ビジネスの促進に寄与します。

**設立** 1991年12月16日(大蔵大臣認可):国際協力銀行(当時、日本輸出入銀行)・商社・製造業企業、公益事業会社、金融機関等170社の出捐により設立  
2010年11月1日(一般財団法人移行)

**会員** 本邦主要メーカー、建設・エンジニアリング会社、商社、通信・電力・ガス会社、金融機関、内外弁護士事務所、会計事務所、コンサルティング会社、各国大使館等約200先

## 会員制度(賛助会員)のご案内

JOI法人会員にご入会いただきますと、以下のようなサービスを受けることができます。

法人会員は、ご所属の社員の方であれば、利用人数制限なく以下サービスを利用可能です。

- (1) 当財団が主催/共催、後援するセミナー(年間100件程度)への無料招待(但し、特別講座(有料)は除く)
- (2) 会員と当財団によるセミナー共催/ウェブ・セミナーの開催・運営アレンジメント
- (3) ビジネス情報誌『海外投融資』(隔月発行)の配付
- (4) 当財団ウェブサイト上、会員限定公開となっているセミナー動画・プレゼン資料、ビジネス情報誌『海外投融資』(デジタル版)記事、レポート等の閲覧
- (5) 受託調査(独自のネットワーク活用による情報収集を通じた報告書の作成)(有料)
- (6) 「国際金融機関便覧」(冊子)、特別講座(有料)、法人向け研修サービスなど会員価格での購入・申込可能

## 海外投融資

Vol.33 No.3 (通巻195号)  
2024年5月27日発行

発行

一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人

五辺 和茂

〒102-0073

東京都千代田区九段北二丁目  
3番6号 九段北二丁目ビル

TEL. 03-5210-3311(代)

URL. www.joi.or.jp

制作協力

(株)エディポック

\*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.  
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan

## 九段だより

2024年4月より当財団の専務理事に就任いたしました五辺和茂でございます。これまで、日本企業の皆様が取り組まれている、新興国におけるインフラビジネスの実現に少しでも貢献できればとの思いで融資の仕事をして参りました。海外インフラビジネスは当財団がフォーカスしているひとつの分野ですが、そのビジネスモデルは時代の要請を受けて変化し、その変化にうまく対応することで、分野によっては日本企業が主導的地位を確保してきています。「孫子」に、「彼を知り、己を知れば、百戦してあやうからず(謀攻篇)」という至言があることは有名ですが、さらに「天を知り、地を知れば、勝すなわち、窮まらず。(地形篇)」との言葉があります。いずれも情報収集の重要性を説いたものですが、天(タイミング)と地(環境)の把握と判断は不透明性が高まる時代において不可欠なものでしょう。「情報」をどう解釈していけるか、いつもとは異なる視点での解釈に発見があります。海外ビジネスの環境についての情報が、ひとつでも多くのそんな発見につながってくればと考えながら、本誌も作成して参ります。

今回の特集には、先ほどとは違う文字通りの「天」、宇宙分野で活躍する日本のスタートアップ企業EX-Fusion社より寄稿を頂きました。詳しくは記事をご覧くださいと思いますが、興味を惹かれた点を紹介します。

○ハイパワーレーザーは、エネルギーを光という形で束ね、一点に集中させることにより光で物体に熱や圧力を加える応用が可能であり、強力なレーザーを使用して核融合反応を誘発すれば、大量のエネルギーを生成することもできる。

○スペースデブリ(宇宙ゴミ)に向けて短時間の高エネルギーを照射し、対象に微小な推進力を与え、デブリの軌道を徐々に変更し、最終的には地球の大気圏外へと誘導する使い方ができる。

○レーザー核融合ロケットは、非常に高い排出速度と低燃費を同時に実現し、従来の化学ロケットで4万トンの燃料を要する火星往復が、わずか240トンの燃料で済むうえ、1年以上を要した火星往復が180日で実現可能になる。

スペースデブリの問題は、宇宙ビジネスの「地」、「宇宙における環境問題」です。スペースデブリの実態とその危険性について私も近年はじめて知りましたが、地球の周回軌道に観測可能な10cm以上のスペースデブリは2万個以上存在しており、それらは地球低軌道において秒速7~8kmで周回しているということです。ライフル銃の弾丸の初速が秒速1kmなので、このスペースデブリの恐ろしさが想像できます。10cm以上のスペースデブリが人口衛星に衝突すれば、その人工衛星は完全に破壊されるといわれます。そのスペースデブリは毎年増加の一途をたどっているわけで、現在の宇宙環境をできるだけ早期に変えていく打ち手を用意することは将来の宇宙利用の観点から急務であるといえるでしょう。同時に、これ以上、スペースデブリを増やさないようにするルール作りも必要になってくるでしょう。気候変動問題のように事態が深刻化してからの対応は多大な労力とコストが必要になります。追い詰められないと動けないのではなく、歴史に学びながら、戦略的にタイミングをとらえた行動に期待ですね。天を知り、地を知れば、勝すなわち、窮まらず、です。

専務理事 五辺 和茂